

令和 6 年 1 月 9 日

獣医学研究院

滝口 満喜 研究院長

北海道大学獣医学部
学内 Quality Assurance 委員会

共同獣医学課程の教育改善に関する提言

令和 5 年度第 1 回 Quality Assurance 委員会（11 月 16 日開催）におきまして、共同獣医学課程の教育改善について検討いたしました。以下に記載した当委員会からの改善案についてご検討いただき、ご回答いただきたくよろしくお願い申し上げます。

1. 「課題研究論文」や「研究室活動」について、学生の意見を聴取すべきである。

2023 年度 3 月実施の卒業時アンケートにおいて、課題研究論文の指導に対する不満および改善の要望を複数の学生が記載していた。他の科目で実施している授業アンケートと同等の内容について、課題研究論文や研究室活動でも学生の意見を聴取する機会を作ることが必要である。

2. 多くの教員にとって、研究・教育環境が期待から大きく乖離している。

2023 年 9 月実施の教員アンケートにおいて、多くの教員が研究重視の教育を期待しており、現状と大きな乖離が存在すると考えていることが示された。若手研究者の育成の観点からも、研究院からの回答および改善策の提示を行うべきである。

3. 学部独自の意見徴収システムを維持すべきである。

昨年度より学部内に設定されていた投書箱は廃止となり、全学で運用されている WEB 意見投書サイトに統一されているが、学生の意見徴収には複数の手法がある方が望ましい。また、獣医学部内の事案について学部独自の受付が存在すべきである。

4. 教育活動における使用動物数の増加について引き続き努力する必要がある。

学内施設での家鶏・ウサギおよびエキゾチックアニマルの学生一人当たりの取扱い数が EAEVE 基準に全く達していない。一方、これまで基準以下だった伴侶動物の剖検数は増加し、基準値に近づいている。この 2 件の数値の改善策を引き続き検討し、実行する必要がある。

以上

令和6年3月13日

学内QA委員会委員長
乙黒 兼一 先生

獣医学研究院長
滝口満喜

学部教育の質保証に係る継続的な取り組みにお礼申し上げます。この度は共同獣医学課程の教育改善についてご検討いただきありがとうございました。以下に対応についてご回答致します。

提言1. 「課題研究論文」や「研究室活動」について、学生の意見を聴取すべきである。

2023年度3月実施の卒業時アンケートにおいて、課題研究論文の指導に対する不満および改善の要望を複数の学生が記載していた。他の科目で実施している授業アンケートと同等の内容について、課題研究論文や研究室活動でも学生の意見を聴取する機会を作ることが必要である。

＜回答＞

ご指摘の件につきまして、教務委員会に学生アンケートを実施するよう指示いたしました。

提言2. 多くの教員にとって、研究・教育環境が期待から大きく乖離している。

2023年9月実施の教員アンケートにおいて、多くの教員が研究重視の教育を期待しており、現状と大きな乖離が存在すると考えていることが示された。若手研究者の育成の観点からも、研究院からの回答および改善策の提示を行うべきである。

＜回答＞

合同FDでも紹介があったように、多くの教員が研究重視の教育を期待しており、研究時間の確保が課題であることは明らかなです。これらに加えて、基礎・臨床・動物/公衆衛生3分野の教育のバランスや、社会情勢やステークホルダーのニーズを考慮することなどを意識して、新しいカリキュラムへの改訂を検討するよう教務委員会に指示しました。その際、研究時間の確保に向けて、共用試験や研究室配属のさらなる前倒し、アドバンスト科目による研究マインドの醸成についても検討するよう依頼しました。

共同獣医学課程における特に相互提供科目での教員の教育負担減に関しては、教員の移動や授業開催形式等について学習システム委員会で検討するよう指示しました。臨床教員の教育負担減については、多様な財源によるさらなる臨床教員の雇用の促進を検討いたします。

若手研究者の育成については、各研究室での研究活動の活性化が前提であり、科研費に代

表される外部資金の獲得に励んでいただくとともに、大学院生の確保に向けてより一層の努力をお願い致します。研究院としては、人件費ポイントの有効活用により、教授が定年退職を迎える研究室を対象に助教の採用を順次行ってまいります。

提言 3. 学部独自の意見徴収システムを維持すべきである。

昨年度より学部内に設定されていた投書箱は廃止となり、全学で運用されている WEB 意見投書サイトに統一されているが、学生の意見徴収には複数の手法がある方が望ましい。また、獣医学部内の事案について学部独自の受付が存在すべきである。

<回答>

教務担当と相談し、学生委員会に諮り、検討することとしました。

提言 4. 教育活動における使用動物数の増加について引き続き努力する必要がある。

学内施設での家鶏・ウサギおよびエキゾチックアニマルの学生一人当たりの取扱い数が EAEVE 基準に全く達していない。一方、これまで基準以下だった伴侶動物の剖検数は増加し、基準値に近づいている。この 2 件の数値の改善策を引き続き検討し、実行する必要がある。

<回答>

国際認証推進委員会に検討を指示しました。